

2011年度

科目名	世界遺産論		
担当教員	坪井 恒彦		
配当	文財1	コード	14015
開期	前期	講時	月曜日4限
		単位数	2
授業テーマ	世界遺産についての最新情報を元に、その現状と課題を探る。		
目的と概要	1972年のユネスコ総会で採択された世界遺産条約による世界遺産は現在、911件(うち日本は14件)に達しているが、その普遍的な価値をめぐる課題などが山積し、大きな曲がり角にある。登録延期となっている「平泉の文化遺産」や世界各地の「危機遺産」の問題などを取り上げ、その将来像などを模索したい。		
成績評価法	レポートの成績(70%)と平常点(30%)によって評価する。		
テキスト	新聞や雑誌の記事、放送・インターネットなどの情報を活用する。		
参考書	社団法人日本ユネスコ協会連盟編『世界遺産年報2011 No.16』。東京書籍刊(本体1200円)。		
履修に当たっての注意・助言/準備学習	世界遺産についての新聞や雑誌、放送メディアなどからの情報にも注意し、講義内容と合わせ、学生諸君が各自それぞれの考え方や意見、価値観を養って欲しい。		
講義計画			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 世界遺産とは何か 2. 「危機にさらされている世界遺産」から見えてくるもの 3. 登録延期をめぐる「石見銀山」と「平泉」の違い 4. 世界遺産における「文化的景観」 5. 負の遺産としての「原爆ドーム」 6. 「日光の社寺」と「白川郷・五箇山の合掌造り集落」が抱える問題 7. 日本の世界遺産と「文化的景観」 8. 「巖島神社」「琉球王国のグスク及び関連遺産群」の特異性 9. 自然遺産としての「知床」「白神山地」「屋久島」 10. 日本の世界遺産暫定リストを考える <ol style="list-style-type: none"> 11. 「百舌鳥・古市古墳群——仁徳陵古墳をはじめとする巨大古墳群」登録の可能性 12. 関西の世界遺産を見直す(その1) 13. 関西の世界遺産を見直す(その2) 14. 実施段階に入った無形文化遺産保護条約への期待 15. 総括 			